

## コラム 14—露清密約

1896(明治 29)年 6 月 3 日、露清密約（李鴻章—ロバノフ協定）が結ばれる。1896 年 5 月、ロシアの新皇帝ニコライ 2 世の戴冠式に出席した李鴻章（写真）に蔵相ウイッテが「日本は必ず、遼東半島奪還を策すに違いないので、この機会に攻守同盟を結びたい」と提案し、その結果、翌 6 月ロバノフ外相と李鴻章が結び、李鴻章は 50 万ルーブルの賄賂を受取りました。



李鴻章

密約の主な内容は、

- 1 日本と戦争になった場合、露清間の相互軍事援助の実行
- 2 満州でのロシアの鉄道敷設権（東支鉄道）の獲得
- 3 日本との戦争の際には、清国の港湾は全てロシア海軍に解放などでありました。

東支鉄道は 1898(明治 31) 年 8 月に着工され、1891 年から建設中であったシベリア鉄道と連絡して、ザバイカルとウラジオストックを最短距離で結ぶことになりました。1901 年 10 月に完成、1903 年 7 月に営業を開始し、この東支鉄道がロシアの対満侵略の経路となり、日露戦争を導く重要な媒体の役目を演ずることになりました。李鴻章は、このときロシアから多額の賄賂をもらっており、いわば満州をロシアに売ったも同然の行為であったのです。日本はこの密約の存在について、1922 年のワシントン会議で中国が暴露することにより、初めて知りました。

また、1897(明治 30)年 10 月 27 日、ロシアは、清国に旅順・大連の租借条約を締結させ、翌明治 31 年には、日本に放棄させた遼東半島に 25 年間の租借権を獲得します。

さらに、1896(明治 29)年に、ロシアは、朝鮮王高宗をロシア公使館に移し、親日派を殺害させます。朝鮮政府はロシア公使館内に移り、朝鮮は完全にロシアの支配下に入ります。

翌明治 30 年 9 月、高宗が皇帝に即位し、朝鮮の国号が、大韓帝国となります。明治 32 年 5 月には、ロシアの軍艦 2 隻が朝鮮の馬山浦に入港、韓露で秘密協定を結び、ロシアに対し韓国内で港の使用権など各種権益を約束します。